

第3回 ふくいの森林・林業のあり方検討会における主な意見

<ふくいの森林・林業基本計画（案）に対する主な意見>

- ・林家の山への関心が低下しており、集落ぐるみで管理することが重要である。
- ・「自伐林家」と「自伐型林業」の記載について、どう記載するのかを検討してほしい。
- ・「森林の多様な活用による山村の活性化」の項目の中で、専門用語が記載されているため、県民の方が分かるよう対応してほしい。
- ・香福茸については、「林福連携など」の箇所を具体的に記載してほしい。
- ・花いっぱい運動については、若い世代をターゲットとして進めるような記載であるため、幅広い世代の方々に関わってほしいことが伝わりにくい。

<計画を進める上での意見やアドバイス>

【森を活かすプロジェクト】

- ・「林業事業体調整協議会（仮称）」については、事業体の形態や立場の違いなどから、まとまることや情報の共有が難しいため、具体的な協議を早く進めてほしい。
- ・女性が活躍できるよう、女性向けの林業体験イベントを実施してほしい。
- ・素材生産者が製材側の情報を掴めるよう、ICT技術を活用するなど製材所と現場（山側）がつながる仕組みを普及してほしい。
- ・レーザ計測などの基盤情報は計画的に整備するとともに、活用する際は、現場の声をよく聞き現場でより有効的に活用できるように対応してほしい。
- ・主伐・再造林の推進と、そのための苗木生産体制の整備、捕獲を含めた獣害対策が必要である。主伐を進めるため、環境保全の森に誘導する人工林の主伐にも取り組んでほしい。
- ・主伐、間伐を進めるにあたり、どの地域の森林がどれだけの生長力があって林業に適しているのか、ゾーニングと合わせ検討を進めてほしい。

【木を活かすプロジェクト】

- ・木材利用に関して、県内外の若い世代と県が協働し、都市部との交流など福井県が全国をリードするような取り組みを行ってほしい。
- ・住宅における県産材利用に対する支援や製品情報の提供など、県産材を使いやすい環境を整えて行ってほしい。

【森に親しみ、森を守るプロジェクト】

- ・福井には多くのすばらしい特産林産物があることから、地盤をしっかりと整備し後継者育成とPR販売を強化してほしい。
- ・災害に強い森づくりでは、地域の人々が山のどこが危険なのかを知らないといけないので、集落など地域と一緒に取り組む必要がある。
- ・森の大切さが県民に伝わっていないので、山の日や森づくりの日（福井県森づくり条例）を活用し、女性や子供も楽しめるイベント等を行って県民に森の大切さを伝えてほしい。

【全般に関する意見】

- ・森林環境譲与税の用途については、森林整備だけでなく、森の価値や木造建築の価値を伝えるための啓蒙活動に使ってほしい。
- ・川上、川中、川下など多面的に情報を共有することが大事である。
- ・どの分野においても人材育成が大事であり、県内外におけるネットワーク化を進め、育成した人材が活躍できる場を提供していくとともに、県内外の様々な立場の人が協力や意見を出し合い、連携することにより新たな展開が生まれるのではないかと。
- ・先行モデル事業（レーザ計測活用事業など）を作って進めていくことを検討してほしい。
- ・施策ごとに進行管理表を作成し進捗管理することにより、対応策が見えてくる。予算を重点配分するなど具体的に進めることができるのではないかと。